

令和7年度 愛川高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

【日 時】令和8年3月2日（月） 13時30分から15時00分

【委 員】石田 裕昭（神奈川工科大学 経営管理本部 企画入学課 担当理事）

今井 信一（桜美林大学 高大接続アドバイザー）

岡田 渉（愛川町教育委員会指導室 代理出席）

橋崎 友聡（愛川高等学校 P T A 会長）

林 繁（愛川高等学校同窓会長）

杉山 治久（神奈川県立愛川高等学校 校長）

大石 進（地域学校協働本部「明日楓会」会長）※ 欠席

（事務局）高間 明浩（副校長）、坂野 敦子（教頭）、矢崎 文治（書記）

【会 場】愛川高等学校校長室

【議 事】

1 校長挨拶

- 3年生に進級した173名全員が本日の卒業式を迎えることができた。これも地域の皆様のご理解があったからであり感謝する。
- 来年度以降の学校運営に活かしていきたいのでご意見やアイデアを頂戴したい。

2 学校評価報告書実施結果（校内評価）について

① 教育課程・学習指導

- ICTツールの活用や小中学校の学び直し、ティーム・ティーチングを実施した。
- 生徒による授業評価では、1学期の肯定的な評価が約83%となり、目標を達成した。生徒一人ひとりに丁寧な学習指導を実現できたことが、達成の要因と考えられる。
- 校内端末の貸出体制を更に充実させ、活用を促進していく。

② 生徒指導・支援

- 遅刻回数60回超の生徒を20%減らす目標に対し、校内評価時点で前年同時期比12%減である。遅刻回数60回超の生徒が2学期後半に増えたことが課題。継続して基本的生活習慣の確立に向けた指導を行う。
- 問題行動の発生件数は校内評価時点で前年度比36%減となり、目標を達成した。巡回指導の効果が出ているので今後も継続する。
- SCやSSW等に繋げる事案が少なくない。今後も生徒の状況把握に努めていく。

③ 進路指導・支援

- 県央地区のインターンシップに9名が参加。「仕事への興味関心が沸いた」など肯定的な感想があった。

④ 地域等との協働

- 中高連携事業の花壇整備は3回で延べ22名、防災訓練は2回で延べ37名が参加し、目標を達成した。愛川町子ども議会、消防署や福祉支援課の行事にも延べ41名が参加した。
- 地域連携として、愛川町3中学校との和太鼓体験・演奏会を開催し、中学生5名が参加した。

⑤ 学校管理・学校運営

○ 不祥事防止会議の進行が特定の職員に偏らないよう、各グループで年3回担当するようにしている。

○ 時間外在校等時間が45時間を超える職員を10%未満に抑える目標に対し、1月時点では8.5%。2月末時点では9.3%となり、厳しい状況になりつつある。

3 学校評価報告書 実施結果に係る学校関係者評価について

① 教育課程・学習指導

- 端末の貸し出しは可能だが持参しない生徒が固定化している。
- 貸した端末も十分に活用されていないことが今後の課題である。

② 生徒指導・支援

- 「過去のケースから遅刻が多い等の生徒の進路を知りたい」とのコメントを頂いたが、個々の生徒の追跡はしていないのでわからない。進学・就職しても通用するよう、きちんとした生活習慣を確立させることが大前提と考える。

③ 進路指導・支援

- 参加生徒へのアンケート結果については、校内評価の報告時に説明済みである。

④ 学校管理・学校運営

- 評価の観点や達成状況に関する書き方へのご意見を踏まえて、校内評価の書き方を改善した。

4 学校評価部会：校内評価に係る学校関係者評価

① 教育課程・学習指導

- 目標達成は評価できる。
- 「生徒一人ひとりに対する丁寧な学習指導」が愛川高校の長所である。
- 校内端末の貸出に関しては課題が多いが推進してほしい。
- 高校は義務教育ではない。生徒が自分の意思で入学した限り、愛川高校で何を学び、どうなりたいのか、そのために学校には何を求めるのかを明確にさせた方が良い。そうしないと主体性は生まれない。
- 自ら学ぶ姿勢を持たせないと“生徒一人ひとりに丁寧な学習指導”は難しいのではないか。

② 生徒指導・支援

- 遅刻が多いと社会人として通用しない。継続的な指導をお願いしたい。
- 先生方の粘り強い指導が問題行動の発生件数減少に繋がったと考える。
- 遅刻を減らすためにも、企業や地域社会と接する機会をもっと増やすこと（社会性の涵養）が必要と思う。

③ 進路指導・支援

- インターンシップ参加アンケートから、貴重な経験になった様子が伺える。インターンシップやボランティア等に参加する生徒が増えることを期待する。

④ 地域等との協働

- 連携生以外の生徒が地域連携事業に参加するようになったことは喜ばしい。
- 1月11日の愛川町一周駅伝で和太鼓部の迫力ある演奏を聴いた。また、陸上部等の合同チームや教員チームが出場していたが素晴らしいことである。

⑤ 学校管理・学校運営

- 不祥事防止の取組にゴールはないので継続的な取組をお願いしたい。
- 引き続き、教員のワークライフバランス向上を図り、働き方改革の推進につなげてもらいたい。
- 残業を減らすことが目的化しているが、これによって教員がやるべきことが薄くなってしまったら、本質的な目的から外れるのではないか。

5 意見交換

- 自ら学ぶ姿勢を持たせることについて、生徒個々に目標設定をさせることは大事だと思う。4月のホームルームなどで指導するようにしていく。
- 内陸工業団地の企業関係者を招き、仕事の紹介をしていただくなどのキャリア教育も実施している。
- 面接だけで愛川高校へ入学できることが中高連携のメリットの一つであったが、現状は定員割れの状態である。こうした状況について、引き続き県教育委員会に定員の見直しを要望していく。
- 連携生の1年の振り返りでは、学び直しによって良く分かるようになったという意見が複数あり、一定の成果は出ている。
- 問題行動の多くは、暴力行為や喫煙、バイクの無断駐輪等のルール違反である。
- 4月から道路交通法が改正され自転車の違反にも反則金が科されることについて、クラスごとに指導する予定である。
- 自転車の乗車ルールやマナーの教育・指導は学校だけでは限界がある。学校と家庭の双方ですめる必要がある。
- インターンシップは、コンソーシアムサポーターが事業所を登録し、その中から生徒が選ぶ仕組みになっている。この仕組みは学校単位ではなく地区単位である。明日楓会は愛川高校独自のものである。
- 愛川町としては中学生と交流していただいていることに感謝している。外国籍の子どもが増加しているので交流を深めていただけるとありがたい。
- 今年度初めて行った愛川東中学校での卒業生講話には3名が参加した。また、本日の卒業式では外国につながりのある生徒が卒業生代表として立派に挨拶した。
- 愛川町の放課後学習指導である「かえで教室」には生徒5名が講師として貢献した。参加した生徒の勉強にもなっており、他の高校にはない良い取り組みができている。
- 職員に対するストレスチェックは2年連続良好な結果である。
- 必要だと思って（自発的に）残業している先生もいる中で、時間だけで管理するのは難しい。報告を聞いて、数値目標を達成するため努力していることが理解できた。

6 令和7年度の振り返り（中高連携事業及び中高大連携事業の報告を含む）

- 配付資料をもとに、中高連携教育事業の令和7年度の活動報告並びに令和8年度の計画及び令和8年度の中高連携相互派遣について報告した。同じく地域連携の活動結果を報告した。
- 明日楓会に関しては、地域学校協働活動推進事業の県の指定から外れることから今年度で事業終了となる。ただし、今まで協力いただいた事業所との関係は維持し、ボランティアやインターンシップ等での関わりは続けていきたい。

7 令和8年度の学校運営協議会の会議形態等について

- 令和7年度と同様、第1回は対面で6月に開催予定、第2回は12月に書面開催を予定、第3回は対面で3月に開催予定とすることを確認した。

8 愛川町教育委員会の岡田委員（代理出席）より愛川町の部活動地域展開計画について説明

- 令和11年度以降の計画として、本校に対しては活動場所の提供と指導者の派遣で協力してほしいとのこと。
- 県の教育施設課の規定では中学校だけには貸せないことになっている。
- 中学を卒業したら愛川高校に進学するという流れを作っていきたいので、合同練習という案も含めて対応を考えていく。

9 校長より

- 先生は何をやりたいか、生徒は何をやりたいかがポイントである。学校としても、何をやりたいたいが持てるように選択肢を増やし、対話ができるように努力する。今後も生徒の見守り、何かあったときのご意見など、協力をお願いする。

以上